

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.187

2015/06/22

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

食害少なくササユリ開花見事

15/06/07



15/06/07



15/06/05



15/06/07

昨年は、シカ・イノシシの食害がひどく保護金網が倒されたり、ネットを飛び越えたりとこの時期の被害が多く一部を除いて惨憺たるものでした。このことを考えて開花予定の株には、強力なガードフェンスに加え腹巻状に細かいメッシュの金網を設置しました。さらに来期に咲くと思われる複葉株にも徹底して金網を設置しました。金網設置後数株金網越しに舌を差し入れて喰われた株がありましたが大部分は被害が認められませんでした。また金網設置を見落とした株も食害に遭うものが少なく、地域の狩猟者による昨年の有害駆除（森の南側で約 100 頭の捕獲）の影響だろうと考えています。



南部湿原のミツガシワ・トキソウ(15/06/05)



付属湿地のサワラン(15/06/05)



おびたしい付属湿地のサギソウ(15/06/12)

待たれている南部湿原のミツガシワの復活も順調に進み所狭しと株数が増え、同時にトキソウも観察コースからも見える群落にまでなってきました。こちらも 4 月以降シカの進入は 1 回で、食害はわからない程度にとどまっています。付属湿地では、トキソウ・サワラン・カキラン・モウセンゴケ・クサレダマ・コバギボウシ・ヤチスギラン等々増殖をはかってきた植物が予想以上に分布を拡大しています。また北部湿原のミヤコアザミの保護区も順調に分布を拡大しています。当初苗床をつくって播種・育種をしてきましたが、草丈の高いススキやヌマガヤの株間にも、自然に飛散した種子から実生があちこちに発芽しています。このままの状態では種子の飛散が続けば広範囲にミヤコアザミが咲くことも考えられます。ただノウサギをはじめとした食害が問題ですが・。



天然更新試験地は、2011 年秋の伐採以来植生調査を続けています。今年も今月から 5 回目の調査を実施します。森全体の現況を把握するために、これまで 1 年に 1 回くらいのペースでセスナによる撮影を行ってききましたが、これには多くの経費が必要で、思うとき（機体の確保）に飛ぶこともできません。これを解決するにはドローンがいいのではと購入に踏み切りました。この費用の一部は、夏原グラントの助成金をあてています。現在飛行テストを繰り返しています。飛行には高度制限があり、セスナで飛ぶ高さからの撮影はできませんが、上の写真のようにかなりの精度で撮影ができます。今後本機を武器に調査活動を続けたいと考えています。操作講習会を実施しますので、希望者は事務局まで連絡してください。実施日をお知らせします。昨年地域の狩猟者が、有害駆除でシカ・イノシシを捕獲してもらったので、ササユリの獣害被害が少なかったことを前ページに書いたが、獣害が無くなったわけではありません。上の写真でも明らかな様に、天然更新試験地には毎日シカが採餌に来ています。この場所の下にあたる北部湿原では、左の写真のようにシカが立ち上がってミヤマウメモドキの枝を喰っています。この記録も夏原グラントの昨年度の助成金で購入したビデオカメラで撮ったものです。このように喰えるものは立ち上がっても喰うので、いわゆる「ディア



ライン」ができることとなります。森はようやく本格的な梅雨となり林床にも湿り気が戻り腐生植物であるギンリ



ギンリョウソウ



シャクジョウソウ



オオバギボウシ



ナツツバキ

ョウソウやシャクジョウソウが発生するようになりました。大型のキノコも発生し始めました。また沢道では久しぶり（シカの食害が少ないため）にオオバギボウシが、森ではナツツバキが咲き始めました。昨年不作だったミヤマウメモドキも多くの実を付けています。湿原ではカキラン・ノハナショウブ・ヒツジグサ・コバノトンボソウ・コバギボウシ・モウセンゴケが咲いています（付属湿地で楽しめます）。モリアオガエルも孵り始めました。